

今現在(平成 27 年度)の小学校英語教育は、平成 23 年度より実施されている小学校学習指導要領に即して行われている。これは小学校 5・6 年生の授業に、週一コマ外国語活動を導入するもので、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことを目的に進められている。小中高を通じて、日本人に課題があったと言われる英語でのコミュニケーション能力を育成することを目標としており、「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能をバランスよく育成できるように組まれている。学校現場の声も、英語教育の導入を支持するものが多い。導入後の平成 27 年 2 月に行われた「平成 26 年度 小学校外国語活動実施状況調査の結果」によると、小学校教員の 76.6%が、小学校 5・6 年生の児童に指導要領を導入後「成果や変容がとてもみられた」と回答しており、また 5・6 年生の 70.9%が「英語が好き」と回答している。このようにおおむね肯定的な評価を得ている小学校外国語活動だが、残された課題も少なくはない。まず、諸外国(中国・韓国・台湾・ベトナム等)と比べ、外国語教育の授業時数が圧倒的に少ないのだ。また、英語を聞いたり、話したりするだけでなく、読んだり、書いたりしてみたいという児童の声を反映するため、次改訂時には授業数を現在の二倍の年間 70 単位時間程度に増やし、教科とすることも検討されている。が、全体の授業時間数や他の教科の時数との兼ね合いを考える必要がある。また、小・中間、中・高間の連携が十分とは言えず、進学後にそれまで学習した内容を生かしてきれていないとの声もあがる。

次改訂は平成 33 年度。さらにオリンピックの開催も意識して実施は 32 年度、2020 年からになる。

ライター：濱田真優、佐藤萌、川崎萌、渡沼希、神保嘉寛、千葉尚志、町田啓、神崎扇樹

エディター：濱田真優